



子どもたちのお手伝いによって
設置が完了したデコイ

ツルが食べに
来てくれると
いいな!



シャベルでデコイの
足下に土をかけ、設置を
完了させてくれました

秋の「ツルの自然体験学習会」を開催!!



武田会長の挨拶

その後、当会が中心となって越冬地整備を行っている江ノ村地区に移動して、ツルを呼び寄せるための模型「デコイ」の設置作業を手伝い、普段近所で観察することのできないツルの大きさや体の特徴などを体感しました。また、江ノ村地区の休耕田を水田に戻し有機農業を実践している福留壮さんによる、ツル保護活動と農業との密接な関係についての話に耳を傾けました。

よかった～!
僕らがどろんこになって
植えた稲、ちゃんと
実っちゃう。



夏に植えた稲の育ち具合を確認



ツルのえさとなる二番穂



メモをとり真剣に話を聞く子どもたち

中山地区のねぐら



湿地で遊ぶ
鳥も増えて
います



チュウサギ

ツルが安心して休めるように、
見通しよく草刈りされていました

講師のお二人のお話



澤田佳長先生

今年は、ツルが中村に来始めてから40年という節目の年です。中村にツルが初めて来たのは昭和47年のことで、中筋川流域の、皆さんの学校のあるあたりで、マナヅル2羽が越冬しました。その後は主にナベヅルが訪れており、平成20年度には最大72羽の飛来を確認し、うち9羽が越冬しました。

中筋川流域はとても自然が豊かな場所です。昔はコウノトリや絶滅したといわれるカワウソもいました。しかし、近年では、身近な鳥であるツバメやスズメも全国的に減っています。コンクリート社会となり、土がある場所が少ないため、巣を作ることができないのです。人の生活と野生動物の生活が密接に関わっていることがわかります。ツルを保護することは、人と自然との共生の第一歩なのです。



福留壮さん

皆さんは「有機農業」という言葉を知っていますか。農薬や化学肥料を一切使わない農業のことです。農薬を使うと稲の害虫は発生しないけれど、良い虫も全部殺してしま

います。ツルのえさとなる虫や、みんなが大好きなホタルなども死んでしまいます。また、田んぼの中に入った農薬は水と一緒に流れて、小さな魚など水生生物に蓄積され、食物連鎖でツルや人間などに害を及ぼすこともあります。

だから、人間と生き物が健康に生活できるように、私は無農薬で農業をしています。すると、私の田んぼではトンボやフナ、ナマズの子どもなど、いろいろな生き物がすめるようになりました。これらはツルのえさにもなります。農業と「ツルの里づくり」には深いつながりがあるんですよ。